

皆満寺通信

第12号

法語

心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。
深く如来の矜哀を知りて、良に師教の恩厚を仰ぐ。
親鸞聖人「教行信証・仮身土巻」

大学の恩師の訃報が届いた先月、葬儀に出向くことは無理だったのでお通夜に出かけました。先生を偲んで世代を超えて教え子、ご朋友、大学の先生方、ほんとに多くの弔問がありました。お通夜はご導師の法話の後で、弔問者みんなで正信偈のお勤めをしました。いろんなことが思い起こされましたが、思うのはつくづく出来の悪い教え子だったということでした。出来が悪いと言うより気のない…と言った方が適切かもしれません。

師の法名は樹心院釋和貴

院号は「樹心仏地」から選ばれたのだとすぐに分かったのですが、その先が出てこない。しかも、どこに出てくる言葉なのかすら思い出せませんでした。で、家に戻って検索。教行信証・化身土・末のほぼ最後に出てくる言葉でした。

「慶ばしいかな、心を弘誓の仏地に樹て、念を難思の法海に流す。深く如来の矜哀を知りて、良に師教の恩厚を仰ぐ。慶喜いよいよ至り、至孝いよいよ重し。これに因って、真宗の註を鈔し、浄土の要を撫う。ただ仏恩の深きことを念じて、人倫の嘲を恥じず。もしこの書を見聞せん者、信順を因として疑謗を縁として、信樂を願力に彰し、妙果を安養に顕さんと」

まことに師教の恩厚を仰ぐ……
信順を因として疑謗を縁として……

期せずして出遇わせていただけたように思いました。ご門徒の皆さんは如何ですか？お通夜、お葬儀、仏法を頂く場でしたか？

僕の力量不足のため、歯がゆくもありますが、焼香して帰るだけのお通夜や、喪主として前を向いてお参りすら適わないお通夜や葬儀に違和感を覚えたことはないですか？

前を向いて手を合わせて聴聞の席に着いていきたいものですね。

報恩講円成の御礼

昨年の報恩講は念願であった門徒の総力を挙げて勤めるということに一歩近づくことが出来ました。随分遅くなりましたが、ここに報恩講円成の報告をさせていただきます。

また、ご懇念をお寄せ下さいました皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

昨年のご縁を頂いている全てのご門徒に報恩講志の御依頼をさせていただきました。初の試みにもかかわらず、多くのご門徒にご賛同を頂き、初年度で報恩講志だけでの報恩講執行という目的を達成することが出来ました。また、誤解も招きましたが、ご門徒各位のご厚意により、多くの御堂志も頂戴しまして、皆満寺護持振興会へ多く回付させていただくことも出来ました。

これからも、報恩講志による報恩講を、お一人でも多くのご門徒の賛同とご参詣を得て執行したいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

皆満寺護持振興会について

皆満寺護持振興会(以降、護持会と表記)は今から40年ほど前に設立されました。残念ながら、現在は活動の滞っている状態ですが、再稼働へ向けて準備をしています。

先の蓮如上人御遠忌法要の記念事業でありました本堂修復・庫裏改築でも護持会は大きな力となりました。来る時への備えや、平素の保全・営繕や、保険等、また、真宗寺院としての責務を果たしていく上でも、護持会は欠くことの出来ないものです。今後は一層、護持会の充実に努めてまいりたいと思います。ご協力の程、宜しくお願いいたします。

お取り越しをつとめましょう

皆さんは「お取り越し」ってご存じですか？

お取り越しとは各家庭などでお勤めする報恩講のことです。蓮如上人は年に一度宗祖の御真影の前にお参りすることを勧められ、報恩講にお参りすることをたしなみとしなさいとご門弟に勧められました。

たしなみとは嗜みです。嗜むとは、好む、親しむ、(技芸を)身につけると言う意味の言葉ですね。好み、親しみ、仏法を身につける…とても難しそうです。しかし、どういう訳か、仏法は、とりわけ親鸞聖人の仏法は味わい深いものです。お家で報恩講お勤めしてみませんか？

誕生児初まいり・花祭り 親鸞聖人御誕生会のご案内

平成25年4月21日(日) 午後2:00～
バルーンアートで花御堂!

4月21日(日)午後2時から初参り・花祭り・宗祖御誕生会を開催します。バルーンアートで遊びながら花御堂を飾ってみんなでお勤めします。

詳細はお寺までお問い合わせ下さい。

※都合により、日程を、上記のように変更いたしました。ご了承の程よろしくお願ひ申し上げます



昨年の花祭り
甘茶掛けの様子

書いて学ぶ

親鸞聖人のことば「正信偈」

日程のお知らせ

前回より依釈段へと入ってきました

昨年の6月に始まりました正信偈の稽古と書き取りの講座も、折り返し点を過ぎました。11月の報恩講までに完成させて報恩講をお迎えいたします。

その後は今回の講座の集大成としてご本山、真宗本廟への上山で締めくりたいと思います。上山は御正忌報恩講(ご本山での報恩講)奉仕団への参加を予定しています。

現在は20名ほどの参加ですが、途中からでもご参加いただけます。(テキスト代の500円のみご負担いただきます)やってみたいと思った方はご遠慮なくお問い合わせ下さい。

今後の日程は下記の通りです。

- 第 9回 5月2日(木)14時30分～16時
- 第10回 6月5日(水)14時30分～16時
- 第11回 7月4日(木)14時30分～16時
- 第12回 9月4日(水)14時30分～16時
- 第13回 10月3日(木)14時30分～16時
- 第14回 11月6日(水)14時30分～16時

※開催曜日は奇数回が木曜、偶数回が水曜ですのでご注意ください。

真宗本廟奉仕団とは？

奉仕団は、講義、座談、清掃奉仕を中心としたご本山での研修会です。寝食を共にし、語らい、親鸞聖人の言葉に学んでみませんか？

10月16日(水)

本山・祖廟収骨のご案内

真宗本廟(東本願寺)須彌壇収骨、大谷祖廟への納骨のご案内です。

ご本山は成立以来、ご門徒によって護持されてまいりました。お手次のご門徒にも、平素の院号や須彌壇収骨、宗祖御遠忌、両堂御修復でも御懇念を賜り、法義相続、本廟護持して頂いています。

今までご本山へのお収骨等は、ご門徒それぞれにお出かけいただきてまいりましたが、この度、日帰りバスでのお収骨・参拝を計画いたしました。近くて遠いご本山です。既にお収骨いただいているご門徒も、なかなかお出かけいただけないのではないのでしょうか？この機会に如何でしょうか？

また、東山の麓、大谷祖廟にも参拝するので、祖廟でのお納骨も頂けますので、ご検討いただければと思います。

※詳細、お申し込み手続きについては次号でご案内いたします。

会費 8,000円(バス代、食事代)程度

須彌壇収骨志(相続講懇志)12万円

※事前のお手続きが必要です

大谷祖廟納骨志2万円以上

※本山と祖廟では収骨方法等が大幅に異なりますのでお問い合わせ下さい。

※阿弥陀堂・御影堂門御修復現場視察、諸殿拝観、渉成園参観等も予定しています。(時間があれば)

夏休み企画 予告

お勤めのお稽古 と 「夏休み親子の集い」 親子でそば打ち!

いつかやりたいとずっと思っていたお勤めのお稽古の会を夏休みにやりたいと思います。

また、昨年好評だった「皆満寺子どもの集い」親子でそば打ち大会を今年も開催予定です。

どちらも次号でお知らせしますので、是非、ご参加下さい。

前住のコラム

「夜が去って朝がくるのか

朝が来て夜の闇が明けるのか」

どちらに頷かれますか？

鶏が先か卵が先かと言う問題ではありません。私たちは、阿弥陀さまの光りに遇って(朝が来て)罪悪尽重の凡夫に目覚める(夜の闇が明ける)のです。自分勝手な思い上がりや自分の云うことや行いが正しいと固執している人は、何時までも夜の闇のなかで蠢いているだけでしょう。真っ暗闇は何も見えないし、怖いまた、不安でなりません。しかし、阿弥陀さまは私たちを決して闇に閉じこめておかれません。

阿弥陀とは、限りのない「いのち」と「ひかり」の仏さまと訳されております。限りないいのちとは、私が目覚めるまでずっと寄り添い続けるという約束をすることですし、そのひかりは愚かさや傲慢さを照らし出し、あるがままの姿をしらせるはたらきです。

闇は光りに遭って始めて破られるのです。必ず何方にも阿弥陀さまの他力の朝が訪れてまいります。

教如上人四百回忌法要勤修 子どもつどい in 東本願寺開催!!

4月2日から4日にかけて教如上人四百回忌法要がご本山で勤められました。

また、5日にはその一環として「手をつなぐ」をテーマに「子どもつどい in 東本願寺」も開催され、被災地支援を行ってきた僧侶有志が全国から集結し、行ってきた炊き出し「触れ合いの香味」を再現して振る舞いました。好評で品切れが続出したようです。また、「遊ぶース」を設けて、三輪車レースや、懐かしのイライラ棒(電流の代わりに触れると風船が割れる仕組み)など多彩で楽しい遊びで子どもたちと楽しい一日を過ごしました。

当寺からは、ご門徒の娘さんが現地スタッフとしてご協力くださり、ご門徒の一家族(4名のお子様とお母様)のご参加を頂きました。

教如上人とは？

教如上人は本願寺第12代のご門主(門首)で、東本願寺を現在の地に開いたお方です。石山合戦に身を投じ、親鸞聖人の仏法領を命懸けで護ろうと、戦い抜き、五十七才の生涯を送られました。

「単に教如上人が東本願寺を創立されたというだけではない。後に江戸時代の諸先輩や清澤先生が輩出されたのも、そういう蓮如上人の精神を明らかにし、親鸞聖人の立教開宗の精神を明らかにせねばならんというものがあったからこそ。単なる東西分派ではない教如上人の願いがここにある」とは、とある先輩の言葉。

当時のご門徒の願い、親鸞聖人の御真影を護ること、それは紛れもなくご門徒による法義相続の願いでありましょう。教如上人はそういうご門徒の思いを担われたのだと知らされます。大切にしたいご先達です。

第2組 行事案内

第43回 親鸞聖人御誕生会

「落語で仏教」

出演 桂 小春團治 他

平成25年5月14日(火) 14時開会

半田市雁宿ホール

入場料 500円

落語や浪曲といった日本の話芸のルーツが、浄土真宗のお寺で行われていた節を付けた説教にあると云われているのをご存じですか？

今年の親鸞聖人御誕生会は、「落語で仏教」です。固くて難しい仏教の話なのに、笑いもあり、オチもある落語です！面白そうです。是非！

※チケットは寺にございます

飲料水支援 支援金勸簿のお願い

宗派では原発事故によりさまざまな不安の中での生活を余儀なくされている方々に飲料水の支援を行って

います。そこで名古屋教区第二組(知多半島内の真宗寺院三十ヶ寺)では、昨年同様、支援金を募って被災地へ飲料水の支援をすることになりました。

ご賛同いただける方は、お手数ですが、支援金を直接お寺へ6月の末日までにお届け下さいますようお願いいたします。

皆様のご理解とご協力の程お願い申し上げます。

事務所建築工事のお知らせ

予定していました庫裏の増築工事は諸般の事情により取り止め、境内地内に事務所を建築することとなりました。お盆までには完成の予定です。工事期間中、ご迷惑をおかけしますが、何卒ご配慮の程よろしくお願いいたします。

編集後記

▽春夏秋冬、季節に一つは通信を出したいと思っていました。遅れに遅れて気がつけば4月。春の嵐で桜も散ってしまった。▽桜と言え、花見に興じる日本人の心は最近流行のアンチエイジングと対極に位置する生き方の現れであるという記事を読んだ。咲き誇って散っていく桜に、有限の生を生きる自分を重ね合わせ、自分もまた自然の一部であることを実感するのだと。移ろいゆくままに、あるがままに…それが仏法。なんまんだぶつ。

◎お寺へお参り際には、お念珠をお忘れなく。真宗では念珠なしでは「仏さまを素手で掴むことになる」と戒められてまいりました。お勤めの本やお念珠は、大切に取り扱い畳の上などに直に置かないようにしましょう。

皆満寺通信 第12号

2013年4月13日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町宇下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail info@kaimanji.or.jp